

ESG 視点経営の深化、イノベーションの加速に向けて(スピーチ全文)

こんにちは。いすゞ自動車の南です。

これから中期経営計画 2024 で掲げております、「ESG 視点経営」の深化と「イノベーション」の加速について、いすゞの取組方針をご紹介します。

この 1 年間、次期経営計画を見据え、新たな経営理念体系である、「ISUZU ID」の策定をはじめ、経営体制の一段の強化に注力してきました。

新経営理念体系「ISUZU ID」

まず、なぜ、新たな経営理念体系の策定に取り組んだかについて、お話しします。

100 年に 1 度の業界変革の局面において、実際に環境変化は加速しはじめており、事業は複雑性を増しています。

こうした状況下で我々はより積極的に社会課題を解決すべく、挑戦してゆきたいと考えています。

そのため、社員一人ひとりが高い視座に立ち、同じ価値観を共有し、全社一丸となり取り組む、そういった高い次元での融合が必要です。

会社として、個人としての飛躍を実現するうえで、全社の指針となる経営理念体系の再構築が、肝要であると考え、取り組みました。

社内議論の結果、「地球の『運ぶ』を創造する」を我々のパーパスとしました。

その実現のために、集団・個人が持つべき価値観を体系化すべく、それらすべてをつなげるリボンの形で表現し「ISUZU ID」と名付けました。

「中期経営計画 2024」で目指している「ESG 視点経営」に、「いすゞらしさ」を加え、経営理念体系として昇華させたものが、この「ISUZU ID」です。

「ISUZU ID」 PURPOSE (使命)

地球の「運ぶ」を創造する。

これは、従来の経営理念「『運ぶ』を支え」の枠を超え、地球上のすべてのモノ・ヒトの「運ぶ」を、お客様、そしてパートナーの皆様と共に主体的に創造してゆくという決意を表しています。

カーボンニュートラルへの対応や、進化する物流への貢献など、
新たな「運ぶ」の価値を提供し、社会を豊かにすることを目指します。

「ISUZU ID」 VISION (将来像)

それを実現するために在りたい「ビジョン」は、
「『安心×斬新』で世界を進化させるイノベーションリーダー」です。

従来より大切にしてきた「安心」に「斬新」を掛け合わせ、
イノベーションをもたらす「イノベーションリーダー」を目指します。

「ISUZU ID」 MISSION (任務)

また、ビジョンに近づくために「あなたと共に『運ぶ』の課題を解決する」というミッションを設定しました。

いすゞのイノベーションによって、すべての人々と共に「社会を前進させる」という意思を含め、
「お客様満足度」、「地球へのやさしさ」、「働きがい」、「社会への影響力」、
の4つの分野で、No.1になるべく、日々努力してまいります。

「ISUZU ID」 CORE VALUE (コア・バリュー)

これらのパーパス、ビジョン、ミッションに向かうために、いすゞグループ従業員が持つべき価値観についても定めました。

個々が貢献する意欲を持ち、挑戦・変化する。
そして、集団として、相互に尊重・信頼し、刺激しあうことで、成長する。

これが私たちの価値観、コア・バリューです。

「ISUZU ID」 まとめ

いすゞグループは、今後、この「ISUZU ID」を起点に社会課題に取り組みます。

「ISUZU ID」の具現化を通じて、既存事業もさらに強化し、財務基盤をより強固なものにいたします。
そして、「ISUZU ID」と盤石な財務基盤のうえで積極的なイノベーション投資を行ないます。

既存事業の拡大・収益向上 : 商品・サービスの充実

さて、それでは次に、昨年度に実施した個別の施策についても一部ご紹介いたします。

まず、主力製品であるエルフとフォワードのフルモデルチェンジを実施しました。

新型「エルフ」「フォワード」は、「デザイン」、「ホスピタリティ」、「エコノミー」、「セーフティ」、「コネクテッド」、

「ラインナップ」の6つのポイントを中心に進化しました。

また、いすゞとして初の量産バッテリーEVである「エルフEV」を市場投入しました。

今後、商用バッテリーEVの社会実装を推進します。

次にUDトラックと初めて共同開発した新型トラクタヘッド、「ギガ」と「クオン」を発表しました。

いすゞ・UD 両社の技術を持ち寄り、高い積載効率の追求、運転操作性の向上、安全装備の拡充などを行ないました。

ドライバー不足や労働環境の改善といった社会課題の解決に貢献します。

これらの商品により、この先さらに強固な財務基盤を作ります。

イノベーションの基軸：カーボンニュートラルや物流DXへの積極投資

さて、「ISUZU ID」を起点とした企業体質転換と新商品による財務基盤強化について申し上げます。

これらを基礎として、いすゞは「地球の『運ぶ』を創造」するため、イノベーションの更なる加速に挑戦します。

具体的には、カーボンニュートラルや物流DXなどへの対応を加速すべく、

「2030年までに総額1兆円規模」を目線として、「研究開発」、「設備投資」、「事業投資」を行なう方針をまとめました。

イノベーション投資 ～カーボンニュートラル対応～

まず、カーボンニュートラル対応としては2030年までに全てのカテゴリでバッテリーEVやFCVといった電動車を市場投入いたします。

さらに、車載電池、モータ・インバータやこれらの制御技術などに関する研究開発を加速し、付加価値の向上に取り組めます。

また、各地域のエネルギー事情に適した多様な選択肢を提供するために、

カーボンニュートラル燃料に関する取組や水素内燃機関の技術開発も継続します。

さらに、お客様のみならず地域社会の脱炭素化に貢献すべくサービスの拡充を図ります。

商用電動車導入に向けたトータルソリューションプログラム「EVision」を更に進化させより利便性の高いソリューションを提供します。

さらに、車載電池を蓄電池として活用しより広範囲のエネルギーマネジメントサービスとして

提供することを検討してゆきます。

また、リマニュートを活用した廃棄車両の再資源化も図ります。

こうした製品・サービスの取組に加え、自社事業所の CO₂ 削減や資源循環に向けた取組も推進します。

昨年発表した「2030 環境ロードマップ」に基づき、国内外の事業所から排出される CO₂ を 2030 年までに 2013 年比 50%削減するための投資を本格化させます。

イノベーション投資 ～物流 DX～

物流 DX 対応としては、お客様の物流課題解決への貢献を企図し
ソフトウェア・デジタル領域を強化し、取組を加速させます。

コネクテッドサービスでは、商用車情報基盤「GATEX(ゲーテックス)」をお客様にご活用頂くことで、
物流業界が抱える課題の解決に、貢献いたします。

自動運転領域では、将来的なレベル 4 相当の実用化を見据え、
技術開発や実証試験に引き続き取り組みます。
また、新時代の「運ぶ」を創造するため物流の効率化等に繋がる新たな事業創出にも挑戦します。

以上のイノベーション投資は、引き続きアライアンスパートナーやお客様と、
協創したり、成果をシェアしたりすることで広く社会に還元することを企図しております。

結び

最後に、本日のポイントを、改めてお伝えします。

「ISUZU ID」を起点とした企業体質転換と、新商品等による財務基盤強化を基礎として、
2030 年までに、1 兆円規模のイノベーション投資を行ないます。

そして、長期的には、「地球の『運ぶ』を創造する」ということを、目指します。

以上です。最後までご視聴頂き、ありがとうございました。